

# 私の見たブラジルの農業(第4回)

中南米技術協力専門家(元岡山専門技術員) 田中文哉

## 田舎の謝肉祭

### 正月より楽しいカーニバル

どんな故事で、いつから、どこで、このお祭(カーニバル、ブラジルではカナバルという)が始まったのか、私は知りません。ここブラジルのカナバルは、庶民の1年間の骨休めの日、つまり、この日だけは何をしようと無礼講というわけです。昨年暮の12月25日のクリスマスが終ると、この日の来るのを指折り数えて待ちわびています。お正月なんて問題ではありません。

政府は毎年、カナバルに用いる音楽と歌を2、3種発表する習慣になっています。本年も新しいカナバルの歌が3種発表されました。

毎土曜日には待っていましたとばかり、歌と踊りの練習が各種のクラブで開かれます。カナバルの踊りは独特なもので、社交ダンスとは全くその趣きを異にしています。跳んだり、はねたり、勝手気ままに飛び歩くような踊りです。2人3人と手を組んで踊る人もいます。クライマックスになると、全く無我の境といってよいでしょう。跳ぶ、はねる、手を挙げる、腰を振る、あらゆる動作が音楽とともに1つの流れとなって渦巻いているようです。

ところで、ブラジルのカナバルで一番有名なのは何といってもリオ・デ・ジャ・ネイロで、数千万円の衣裳をつけて競演するそうです。外国からの見物人でワンサと賑い、世界の名物となっています。

### おどるお姫さま

ここで、紹介しようとするのは、こんな有名なものではなく、ブラジルの中央西部の片田舎、クヤバ市のカナバルです。市の中央の目抜き通りを500メートルくらいに区切って、2月28日から3日間、毎午後4時から9時まで、大通り狭しとばかり踊り抜くのです。観衆は歩道に山をなして、飽きもせず眺めています。



どの行列の組も、先頭に吹奏楽器や打楽器の楽隊をおいて、踊り狂っています。しかし、1つのパレードショーの形式のものもあります。このパレードショーには市長賞がかかっているそうで、各町々で粋を凝らして、この日の来るのを腕を撫して待っているのだそうです。このパレードショーの形式を申してみますと、まず先頭にインディアン達が群舞をなして通り過ぎると、乙姫様の一行がやって来ます。その露払いとしてピエロ、可愛い指導者達が身振りよろしく踊っています。お姫様の侍女数人は、手に手に花やカップをもって、中央にお姫様を囲んで踊ります。その両側を男女の親衛隊が、唄い、踊りながら通ります。乙姫様のうしろには、これまた美しい侍女が腰をくねらせ、足を奇妙に踊らせながら手にはお姫様を象徴した旗をもって行進してゆきます。……ちよと、籠宮の乙姫様がサンバを踊りながら、メインストリートを練り歩くのです。

踊るもの、観るもの、老いも若きも、男も女も、大人も子供もありません。全く一体となって、カナバルの歌を唄い、カナバルの踊りを踊って狂い舞う

## 岡山畜産便り 1965.04・05

姿は、これこそ、1年の苦労を一度にふっとばすこと間違いありません。日本の例では阿波の阿呆踊りと思えばよいでしょう。阿呆踊りよりももっと勇ましく、コケイッシュですが……

さて、その夜ともなると、クラブに集まってパレードショーならぬ想い想いの男女が、夜の明けるのも知らず踊り狂うのです。これがほんとうのカナバルかも知れません。

## 定期市の話 (セラー)

### 道路に並ぶ露天市場

日本のあちらこちらに廿日市、四日市などの地名が残っています。これは、皆さんご承知のように廿日の日、四日の日に、それぞれそこで市が立ち、いろいろなものが取引された名残りです。このような市が発展して、岡山市にも立派な公設市場ができています。ところで、ここブラジルでは、どんなふうになっているのでしょうか……

ブラジルといっても、リオデジャネイロやサンパウロのような大都市と田舎では随分違うだろうと思って見てきましたが、サンパウロもここクヤバもその規模の大小こそあれ、大きい違いはありません。

クヤバでは、毎週土曜日に定期市が開かれています。金曜日(前日)の午後から夕方にかけて、大型トラック、小型トラック、馬車などあらゆる輸送方法によって街の市場に物品がどんどん集まってきました。このクヤバ市では、中央通りの西の低い通り約300メートルが、この日に限って市場に早変わりします。ちょっとした広場にはトラックや馬車がひしめきあっています。道路には四列に店舗が開店します。売る品物……とにかく日用雑貨、穀類、衣類、ありとあらゆるものがところせましと並べられますが、その中で一番多いのが野菜屋さんです。

### 市場に生きる日本人

ここで日本人移民のお話をしておきましょう。

ここマツグロツはブラジルの各地の移住地の中でも極く最近開けたところです。南の方からこの地を指して多くの移民が移住しました。しかし、現在残っているものは、この州の南半分のカンポグラ



カーニバルのインディアン

ングという地方以南で、ここクヤバ市付近およびその北部には、ほんとうに数十個の移住者を数える程度です。この地方の最北部に有名な松原移住地があります。リオフォローという川に沿った一帯を松原という人が、ブラジルの前の大統領から直接分譲してもらったというところです。この付近に数十家族を残すのみで、当クヤバ市付近にはチラホラの移住者です。

ところで、ここに日本人移住者の問題があるわけですから、こんな辺ぴな地方ではとても普通のやり方ではなかなか定着できません。よほど意志強固で頑健な人でないと開拓に打ち勝てません。

松原移住地に農業を求めて来た人も、1人2人と脱落していきました。そしてこのクヤバの街にたどりついた人々がようやく活路を見出したのが、この“市場での野菜売り”です。といっても、いまこの市場で野菜を売っている人のすべてが脱落者というのではありませんからおまちがいのないように……

この市場を販路として、はじめから売るための近郊野菜経営をやって大きな産をなしている人々も数多くみられます。Y氏もその代表的な方ですが、氏は奥地で農業をやるよりも、とにかく作ったものが売れなければ仕方がないと、この街の近郊でこの街の消費をねらって農業経営をやり、いまでは押しも押されもしない大農場主になっておられます。農業といえばY氏というところまで成功されました。

Y氏の言葉をちょっとお伝えしましょう。「私はこの市場にないものをいつも作って出すように心がけています。」「数多く出すより、良質のものを出した

## 岡山畜産便り 1965.04・05

ほうが、運搬にも都合がよくて儲かります。」皆さん、この市場を根城に売る農業を実際にやって成功されたY氏など、日本の方にも見習っていただきたいものです。

### 袋をさげて御主人が…

さて、この市場は市の消費者にとっては、最良の贈り物です。当日は早くより大きな袋をさげて市へ、市へと、奥様が出かけるのではなく、御主人が出かけていくのも、ブラジルならではの風景でしょう。

(下層クラスの人々は必ずしもそうではないが………) 大きな袋に奥様の言い付けた買物をいっぱい詰めこんで、エンサ、エンサと運んでおられる御主人方を日本の主人も見習うことにいたしましょう？

サンパウロ市では、このような露天市場はいろいろの点で良くないので、公設市場での取引にしようと考えているようですが、なかなか簡単にいきません。

このクヤバでも、なるほど露天といっても僅かの屋根はありますが、こんなところで食料品、とくに野菜、果物、肉類が売られているのは非衛生的ではありますが、これも近代都市への発展のためには一度は通過しなければならない関門かとも思われます。田舎から来た人々は、この日がいわばお祭りのようなものです。持って来た品物を前部売りつくして、飲んで、食って、買って、また田舎の家に帰っていくのです。彼等の生活では、日曜日以上の最良の日がこの市の開かれる日となっているのです。こんな風景をみると、きたないからと、一概にこの露天市場を閉め出すわけにもいきません。次の日曜日の朝は昨日の名残りとどめて、馬糞の香がただよっているのも何かしら懐かしいものです。



露天市場の全景



市場の日本人